

高専カンファレンスの挑戦

大日向 大地 長野高専 電子制御工学科35期 02年卒

高専カンファレンス実行委員会代表
勤務先 株式会社富士通長野システムエンジニアリング



高専カンファレンスの紹介 — 高専生、OBのための勉強会 —

高専カンファレンスを存じない方のために、まずは高専カンファレンスについて簡単に紹介します。

高専カンファレンスは一般には「高専生、高専OBを対象としたプレゼン型勉強会」として紹介されており、2008年6月に第一回を東京で開催してから2009年5月までに北海道、北陸、九州などで通算6回開催しています。毎回、公募した数十人(20~60人)が集まり、10名ほどの話者がスライドを使ったプレゼンベースでの発表をします。発表の内容は、高専生らしいものづくりの話から、科学、キャリア、経営など多岐に渡ります。参加者、発表者は当初は高専生、OB、教職員を対象としてきましたが、現在では高専とは直接関係がない(でも高専に興味・関心がある)方の参加、発表もあります。

カンファレンス終了後は懇親会を行います。懇親会のやり方はその都度いろいろですが、カンファレンスの会場で「ビアバックス」や「ピザとビール・ドリンク」の軽食の形式をとることがあります。懇

親会では参加者同士の交流が進むほか、「今度、自分のところでやる!」と開催宣言が上がることもしばしばあります。

カンファレンスの様子は「Streamly」を利用してWeb中継(チャットつき)をします。さらに、中継した映像は後日、動画共有サイト(YouTube、ニコニコ動画)にアップロードされ、だれでも視聴できるようになります。このように、開催当日に会場に足を運べない方でも、場所と時間を越えてカンファレンスに参加することができるようになっています。

高専カンファレンスの始まり — まずはやってみよう —

高専カンファレンスが始めた経緯を語るにあたり、まずは現在の「勉強会ブーム」について軽く触れておきたいと思います。

現在、いわゆる「勉強会」が史上空前のブームとなっています。「勉強会」の定義は曖昧ですが、ネットワーク文化、オープンソース文化をルーツとするコミュニティベースのものと考えてください。また、ブログ、SNS等のオンラインツールによって、参加者個人同士が直接つながっているといった特徴があります。

てワクワク感を共有したい、です。

私自身、学会のシンポジウムの幹事を務めるといった経験はありますが、ゼロから立ち上げた経験はなく、本当に開催できるのかといった不安がありました。しかし、開催を知った幾人もの方々からの協力・応援があり、2008年6月14日東京渋谷のウノウ株式会社さんのフロアを会場に、30人が集まり開催することができました。このとき、オンライン参加者は20名ほどおり、合計で50人が参加したことになります。「高専」というキーワードひとつで多数の人が集まったわけですが、これは高専生特有の連帯感があつてこそその成果と言えるでしょう。私はこれを「マイノリティ故の結束」と表現しています。

第一回開催から3週間後、私が全く関わることなく「高専カンファレンス」北海道」が企画され、同年9月13日に開催されます。後述するように、このとき私が運営に関わることなく開催されたことは、その後の高専カンファレンスの姿の重要な布石となりました。

継続開催への取り組み — 「だれでもできる」を目指して —

話を第一回を開催した直後に戻します。第一回を開催したところ、参加者の多くから「また参加したい」という声がかえったほか、オンライン参加者あるいは後日ブログなどで知った方々からも「次は参加した



カンファレンスの様子 (高専カンファレンス in 九州)

このような勉強会の中には、割と目立つ割合で高専生、高専OBの姿が見られます。こうした状況の中、2008年3月ごろには「高専カンファレンスをやりたい」という声が自然発生的に上がってきます。そこ

で2008年4月1日、自分のブログにて「高専カンファレンスやります」と題して、高専カンファレンスを開催することを宣言しました。このときの基本コンセプトは、多方面で活躍する高専OBの話の聞き

書いている人
大日向大地

id:earth2001y
1981年長野県生まれ。うにマカーかつしーぶるぶらー。そのうち何かする。
フォト / 本類 / twitter / Socialtunes / コトノハ / 音口Z / mixi / N.E.A. / GREE / 研究室

Skype Status
earth2001y オンライン

TopHatena

検索

カレンダー
2008/04
日 月 火 水 木 金 土
6 7 8 9 10 11 12

おびなだいちのはてな日記 > Apr 1, 2008, Tue > 高専カンファレンスやります

1981 | 11 | 2004 | 08 | 09 | 10 | 11 | 12 | 2005 | 01 | 02 | 03 | 04 | 05 | 06 | 07 | 08 | 09 | 10 | 11 | 12 | 2006 | 01 | 02 | 03 | 04 | 05 | 06 | 07 | 08 | 09 | 10 | 11 | 12 | 2007 | 01 | 02 | 03 | 04 | 05 | 06 | 07 | 08 | 09 | 10 | 11 | 12 | 2008 | 01 | 02 | 03 | 04 | 05 | 06 | 07 | 08 |

全記事一覧

<[事]募集要項出た | [日]新年度> | 新しいエントリ

Apr 1, 2008, Tue

[宝]高専カンファレンスやります 編集 28

とりあえず宣言。エイプリルフルネタじゃないよ>>

◎ これまでの流れ

- 高専カンファレンスやりたくね? - devlog.holy-grail.jp
- 高専カンファレンスについて一言っておくか - yoko note (よこの一と)
- 高専カンファレンスやりたい - おびなだいちのはてな日記
- さて、なにやら高専カンファレンスが話題になっているわけだが - I CAN 'CAUSE I THINK I CAN (Re-again)

誰も音頭とらないのかよwww
とても高専的だwww

まったくしょーがねーな、これだから高専生は...。とりあえず企画を上げてみるので、人が集まりそうなら真面目に準備する。人が集まる気配が無くて流れたら、おまいらのせい。おいらは悪くない。

◎ いま考えていること

○ やる内容

ライトニングトークが主かな。高専関係者が集まるのだから、ある程度は高専が関係したテーマを設定したい。必ずしも技術的なものではなくてもいいと思う。

高専カンファレンス開催を宣言したブログエントリー

い」という声がありました。となると、必然的に「次の開催をどうするか」という課題がでてきます。

私自身、生活も仕事も拠点は長野にあり、東京での開催に継続的にイニシアチヴをとり続けるのは困難がつきまとう事は想像に難くありません。一方で、これからは開催を続けていきたいという願いもあります。そこで次の3点からなる提案をしました。

- 1 次の開催は別の人がやってほしい
- 2 東京以外の場所でもやるのも良い
- 3 将来は、各地に開催ノウハウを持つ人がいて巡回開催できれば面白い

このうち1、2については前述のように3ヶ月後に北海道開催という形で実現しました。私も北海道へ飛び、いち参加者として参加しており、そこで見たものは東京で開催したときと変わらない活気でした。掘り起こせば、やりたい人・参加する人はどこにでもいるものだということが体験として分かりました。

残る課題は3の実現です。幸い、北海道開催の2週間後、過去のカンファレンス参加者の一部とカンファレンスに興味を持つ面々が集まる機会がありました。そこにはミラクル・リナックス株式会社代表取締役社長の児玉崇さん(鈴鹿高専出身)も同席しており、児玉さんのバックアップも得られ、同年12月に第三回カンファレンスを開催することが決定します。

第三回カンファレンスの準備にあたって

は、単に開催することだけでなく、継続開催の仕組み作りもテーマとしたプロジェクトとして次のような活動も試みました。

- ▼高専機構へ訪問し活動をPR
- ▼開催に関するあらゆるノウハウを文書化・コンポーネント化

▼「だれでもどこでも開催できるカンファレンス」のイメージ形成
この試みはひとまず成功します。第三回の高専カンファレンスは、わずか1日で参加募集定員が埋まり、北は青森・秋田、南は福岡と全国規模で人が集まる大盛況となりました。その場でそれらの成果を公表したことで、参加者の一部がカンファレンスから帰宅後に各地元での開催を検討し、後の「高専カンファレンスin福井」「高専カンファレンスin九州」「高専カンファレンスin東北(開催予定)」の開催へと繋がっていきます。

高専カンファレンス実行委員会 — 継続開催のHUBとなれ —

高専カンファレンスはこれまでに6回開催し、そのうち3回は東京以外の場所(北海道、北陸、九州)で行われています。また、今年の8月には東北(福島)での開催も控えています。地方開催のさいには各地の嗜好を凝らした開催がされており、地方開催は高専カンファレンスの魅力・特色の一つとなっています。

高専カンファレンスは毎回開催の担い手

が異なります。そのため、毎回色が違って新鮮さを保てるほか、特定の人物に負担が集中することを回避することができます。

一方で、蓄積した開催ノウハウを如何に継承するかといった課題もあります。そこで2008年末から「高専カンファレンス実行委員会」の組織化、役割の明文化作業を進めてきました。組織化の基本コンセプトは、

- 1 だれでも開催できるようにノウハウの共有化、コンポーネント化
- 2 各地で「高専カンファレンスやりた」という声があり、開催時期などについての調整役
- 3 外部の機関、コミュニティと交渉ごとが生じるときに、信用の担保となるガバナンス

というものです。
毎回開催の担い手が異なるという形態とメリットを保ちつつ、組織化コンセプトをどう実現するか? これまで高専カンファレンスに参加した多くの方からの意見を集約し、またHNKさんの定款を参考にしながら、高専カンファレンス実行委員会の存在意義を模索しました。

- そこで、高専カンファレンス実行委員会の事業を次のように決めました。(定款第3条)
- ▼高専カンファレンスの開催
 - ▼高専カンファレンスの資料の公開
 - ▼他団体が行う高専生を対象としたコンテンツ、イベント等の支援

▼その他、前条の目的を達成するために必要な事業

また、カンファレンス開催にあたっては、各開催ごとに小委員会(現地実行委員会)を結成し運営を行います。小委員会には実行委員会の役員1名以上を含むこととして、開催のサポートを行うことにします。(定款第5条)

2009年4月1日に定款を発効し、高専カンファレンス実行委員会が本格稼働しました。高専カンファレンス実行委員会のコアメンバー(役員)は、過去の開催で中心的役割を担ったり、開催運営に必要なノウハウを有しているメンバーにより構成されています。これらのメンバーが各地の「高専カンファレンスやりたい」という声に対してHUB役となつて必要なノウハウを提供し、だれでもどこでも開催して楽しめる高専カンファレンスづくりを担っています。実行委員会そのものには、カンファレンスに興味がある方ならどなたでも参加でき、そこに流れる情報を見ながら、次の開催に名乗りをあげるといふ開催準備プロセスも存在します。

一年前、カンファレンス開催を宣言したときには、まさかここまで大きくなると思ってもいませんでしたが、多くの人の共感・賛同を受けることができました。この組織化とこれからの活動で、より多くの人にカンファレンスを楽しんでもらいたいと願っています。本稿をご覧の諸先輩方

ワンポイント: 高専カンファレンスを作り伝えるツール

高専カンファレンスを支えるツールはオンライン、オフライン、近代的、古典的いろいろあります。そんなツール類をご紹介します。

まずオンラインのものですが、Wikiとメーリングリストがあります。Wikiは私が高専カンファレンスの開催を宣言した直後に村山庸平さん(鳥羽商船OB)によって勝手に立ち上がり、それが現在も使われ続け、一般向けの広報ツールになっています。メーリングリストは大きく2種類あり、ひとつは高専カンファレンスに興味がある人が自由に参加できるMLで、実行委員会のメインのMLでもありません。もうひとつは、各開催回ごとのスタッフ用のMLです。

本文でも触れたUstream.tv。最近流行のストリーミングサービスで高専カン



開催ツールのひとつ「名札」。このような細部に至るまでノウハウ化を進めました

ファレンスでも重宝します。配信用アカウントは高専カンファレンスで専用のものを用意しています。開催時の中継には2チャンネルを使用し、一つは発表者が、一つは会場の様子などのように使います。中継した映像はその後ニコニコ動画やYouTubeにアップロードされ、いつでもだれでも見ることができるようになります。

Twitterも機動力のあるツールで、ある案件がTwitter上で数分うちに済んでしまうことも珍しくありません。そして**参加者個人のブログ**は口コミの発信源として、広報を非常に重要視しており、「ブログを書くまでが高専カンファレンス」という合い言葉もあります。

つづいてオフラインなものです。まず**名札ケース**(前ページ参照)があります。参加者が多くなった第三回開催時に用意しました。意外なものとして**銅鑼**があります。LightningTalkと呼ばれる5分の短いトークセッションが行われるさいに、終了の合図に使います。なお、銅鑼を叩くのは女性と決まっております。ドラ娘と呼

ばれます。名札ケース、銅鑼などは高専カンファレンス共用の備品として、開催の度に全国各地を飛び回っています。

それから重要なのは**交通インフラ**です。全国各地で開催し、全国から人が集まる高専カンファレンスでは、参加者の移動の足は開催の生命線です。昨年の北海道開催のときには、開催翌日にANAの発券トラブルがあり私を含む3人が帰路で足止めを受けました。また、個人のことを言うと、なんだかんだ言いつつも東京開催のときには運営スタッフの一員として活動しており、夕方に東京へ移動してミーティング、そして長野に帰る、なんてこともあります。高速かつ安定運行の交通インフラがあつてこそそのスタイルです。

このように高専カンファレンスはいろんなツール、環境によって支えられています。そして、それらのツールを作り、動かす人々の中にも大勢の高専OBがいることと思います。そんな方々にも高専カンファレンスに参加いただき、インフラを支える仕事についての話などを聞かせていただきたいと思います。



第一回カンファレンスの参加者



高専カンファレンスin北海道でトークする筆者

これまでの開催実績

開催日	参加人数	開催地	会場	テーマ
2008年6月14日	30人	東京	ウノウ株式会社	
2008年9月13日	25人	札幌	札幌市産業振興センター	私の高専道
2008年12月8日	55人	東京	ミラクル・リナックス株式会社	Nature Style
2009年2月28日	60人	鯖江	福井高専	
2009年4月4日	20人	東京	株式会社オブティム	
2009年5月16日	65人	久留米	久留米高専	高専生のいま

今後の開催予定 (2009年5月末時点でスケジュールされているもの)

開催日	参加人数	開催地	会場
2009年8月29日	60人	いわき	福島高専
2009年11月7日	150人	東京	産業技術高専荒川キャンパス (旧航空高専)

高専カンファレンス情報へのコンタクト

メール: mail@kosenconf.jp (実行委員会窓口アドレス)
Web (Wiki): http://kosenconf.jp/ タグ: kosenconf

もぜひご参加ください。また、若輩の私たちが開催で困っていることがあれば、ご指南ご支援を頂ければ幸いです。